平成31年度　唐津市立久里小学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
豊かな心を培い、夢の実現に向かって、いきいきと活動する子どもの育成	①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図ると共に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。 ③価値ある行事・体験活動を通し一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。 ④子どもの運動習慣を把握し、健康や成長のためには運動が欠かせないことを理解させ、何事に対しても最後までやりとげる心情及び運動習慣の形成に努める。

3　目標・評価

①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
学校運営	○活用力研究の深化	・新学習指導要領の円滑な実施につながるよう、また主体的・対話的で深い学びの実現を期した授業研究を進める。活用力の育成を期した校内研究を推進する。	・算数科で「わかった」「できた」と思うことが増えてきたといえる児童を80％以上にする。 ・「な・か・よ・し」の学習過程の中にパーソナルワーク・グループワーク・クラスワークを効果的に設定した授業作りをする。 ・グループワークの進め方の習熟を図り、協働学びの充実を目指す。	・校内研で、以下のことを中心に研究を進める。 ○考える楽しさを味わわせる授業作りの進化（学習過程・時間配分） ○活用する力を伸ばす工夫（基礎基本の定着・見通しなど） ○交流活動の定着化（ともだちタイム・みんなでタイム） ○振り返りの充実（「よさをみつけよう」「しっかりわかったよ」・適用問題）	研究	藤田
教育活動	●学力向上	・新しい時代に対応した学習内容の構築、児童理解に基づく分かる授業を実施する。 ・読書に親しみ、豊かな心を育成する。	・標準学力検査（1～3年）及び、県学力調査（4～6年）で平均値を目指す。 ・家庭学習の目標時間（学年×10分+10分）の達成率を80％を目指す。 ・読書30選の達成率60％を目指す。	・「くりのこタイム」（15分）を設定し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、保護者への啓発をする。 ・読書を推進する。（さわやか読書・・読書30選・図書館祭り　など　）	研究	藤田

②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
教育活動	くらしづくり	・あいさつ、規律ある生活（規範意識）、清掃活動等を徹底させる。 ・特別支援教育の充実・深化を図る。 ・危機管理（災害対応マニュアルの見直し）の徹底と防災体制の構築・充実を図る。	・「あいさつ」「ろう下歩行」「無言掃除」「はき物を揃える」を、本校の生活の四本柱として目標に据え、一年間徹底して取り組む。年間を通して達成できる児童を85％以上にする。 ・安心して学習できる支援体制を整える。 ・災害時に自ら正しく判断し、行動できる児童を育てる。	・児童の生活カードの項目の中に、「生活の四本柱」を必ず入れて、毎日、継続的に達成できているかふり返らせ、児童への意識化を図る。 ・学習に遅れがちな児童は、特別支援学級担任や級外が個別支援にあたる。 ・昨年度の反省を生かし、様々な災害を想定し、年間を通して5回の各種避難訓練を計画的に行う。	生活	吉田
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめを許さない風土の醸成と防止対策の充実を図る。	・「なかよしアンケート」や児童のこまめな観察・保護者との面談等を通して、いじめの早期発見、全職員での共通理解、適切な対応に努める。 ・一人ひとりがクラスで楽しい学校生活を送れるようにする。 ・いじめに対する職員の認知力を高めて、いじめの防止に努める。	・毎月1日に「なかよしアンケート」を実施し、児童の様々な思いを素早くすくい上げられるようにする。慎重な対応が必要な場合は、生徒指導協議会で共通理解し、児童の支援に役立てるようにする。 ・クラスの雰囲気や適応できていない児童を客観的に把握して、一人一人が楽しい学校生活を送れるように支援する（Q－Uアンケートなど）。 ・教師がいじめの残酷さを強く理解することで、児童間のいじめの認識力を高め、日常的ないじめ防止に努める（いじめに関する職員研修）。	生活	藤田

③価値ある行事・体験活動を通し一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
教育活動	○なかまづくり	・特別活動の充実を図る。 ・体験活動を重視する。 ・地域との連携を進め、開かれた学校づくりをめざす。 ・人権・同和教育を積極的に推進する。	・特別活動の行事を工夫し、ともに支え合う仲間づくりを進めることで、友達との活動が楽しいと思う児童を育てる。 ・学校での行事が好きと思える児童を増やす。 ・家庭や地域の良さを理解し、行事について自発的に計画し、主体的に実践する児童を育てる。 ・人権・同和教育の視点に基づき、人権意識を高める指導を行う。 ・全教育活動を通して、人権が尊重される人間関係づくりや、いじめや差別・偏見をなくそうとする心情・態度を育てる。	・仲間づくり、たて割り班での異学年との交流、全校での集会活動などを通して、よりよい人間関係の構築を図る。 ・各教科や総合的な学習の時間では、体験的な学習を多く取り入れ、仲間と活動することのよさを実感できる場を設定する。 ・運動会や児童集会など様々な行事を通して、地域との連携を密にしていく。 ・日常の教育活動全般において、お互いの違いやよさに気付き、自他ともに大切にする心を育む（朝の会や帰りの会、たてわり班活動、人権ポスター・人権標語、平和集会、人権教室など）。	特活	平田

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目（あれば記入）

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・タイムマネジメントを考え、職務遂行を行う。	・効率的な業務を推進するために、情報の共有化を図り、時間外勤務時間が1か月あたり40時間未満の教員の割合を9割以上とする。	・職員会議の議題案等を年度当初に示し、あらかじめ各部担当職員の意識を高める。 ・特定の職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 ・定時退勤日を週に1日設ける。	教頭	髙添

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目